

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

〈羅臼小学校「総合的な学習の時間」地域学習〉

- ・3年生～自然・郷土学習①～羅臼町の動植物（ヒグマ、鹿など）調べ、北方領土学習、ワシ学習（羅臼ビジターセンター見学）
- ・4年生～自然・郷土学習②～外来種学習（ハチ学習、ゲストティーチャーに環境省職員）北方領土学習
- ・5年生～キャリア教育と伝統文化～北方領土学習、羅臼昆布学習（昆布場見学、漁師による出前授業）、サケフレーク作り（漁協職員による出前授業）、知床いぶき樽
- ・6年生～キャリア教育と伝統文化～12歳からのハローワーク（プロフェッショナル 仕事の流儀 in 羅臼）、ユネスコスクール発表会

活動事例

(1) 熊学習

ふるさと羅臼では、クマを巡ってどのような問題が起きてきたのか。また、現在どのような課題があるのか。ヒグマとの付き合い方や出会ったときにどうふるまえばよいのか…。人とクマの暮らしが隣り合わせという羅臼町の現状を、知床財団に協力いただき、写真や映像、模型などを活用しながら学んでいった。触れる/考える/知るといった学習活動を3年生時と5年生時に発達段階に応じた総合的なプログラムで展開している。なお、今年度の「羅臼町ユネスコスクール発表会」にて、5年生がクマ学習の内容をクイズにまとめて発表する予定である。



(2) 羅臼昆布学習

「羅臼昆布はなぜ価値が高く値段も高いのか？」を、単元を貫く中心課題として学習を展開した。昆布の長さや大きさを模型で体感し、食べてみる/触れてみることから課題を追究していった。羅臼漁協組合に協力いただき、昆布漁師である井田さんをゲストティーチャーに迎えた。本物に触れる貴重な体験と長年漁に携わってきた最前線の声を聞くことができた。



(3) 外来種学習（ハチ学習）

セイヨウオオマルハナバチについて、その見分け方や特徴などを、金澤主幹をゲストティーチャーに迎えて学んでいった。外来種の侵入（過去）とこれからどう付き合っていくか（未来）についても児童たちと考えた。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）